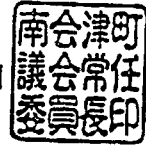


平成23年11月28日

南会津町議会議長 芳賀沼 順一 様

総務委員長 五十嵐 司



所管事務調査（行政視察）報告書

- 1、参加者 五十嵐 司 室井 実 大桃秀樹 渡部 優
楠 正次 芳賀沼順一
事務局 渡部俊夫
- 2、日 程 平成23年10月24日（月）から26日（水） 2泊3日
- 3、目 的 (1) 着地型観光による町づくりについて
①文化、旧跡遺産を活用した街づくりについて
②観光施設等の管理運営について
(2) 第三セクターの運営について
①経営状況について
②施設の管理について
- 4、視察地 青森県新郷村
岩手県雫石町
- 5、青森県新郷村
対応者 村長 須藤良美 副議長 福山恵一郎
産業建設課長 中村克夫
議会事務局長 櫻井雅洋

概要 新郷村は青森県十和田湖の東側に位置し、西は秋田県との境に位置する三戸郡内の村で、歴史は明治4年の廃藩置県により、戸来村と西越村は「斗南県」のもとに置かれ、以後幾度かの統廃合を経て、明治22年の町村制施行で野沢村が誕生しました。この時、戸来村と野沢村にはそれぞれ村役場が置かれ、酪農を中心に農業と炭焼きを行う産業が栄えました。戦後の農地解放と新しい農政のもとで、特に酪農は戦前を上回る勢いを見てきました。

昭和30年には、町村合併促進法により旧戸来村全域と旧野沢村西越区域が合併して新郷村が誕生し、翌31年には五戸町から一部を編入して現在の村の形となりました。合併後の総面積は150.85平方キロメートルで、そのほとんどが山林原野で農地は1割ほどしかありません。加えて、偏西風の影響を受けやすい土地柄であるため、産業の低迷や人口の流出による村の過疎化現象が見られます。

当村は十和田湖に隣接する迷ヶ平高原が自然休養林に指定されたことで、十和田湖

への東玄関口として観光面でも大きな飛躍を見せ始めています。主たる産業である農業では、従来の米・野菜・葉タバコのほかに、ニンニク・長いも・葉菜も取り入れた複合経営や酪農などによる地場産業の育成が行われています。

また、観光面ではキリストの墓伝説など、ユダヤにまつわると言われる伝承、遺跡も多く、神秘の村としても知られており、イスラエルおよびユダヤ民族友好関係にもあります。

キリスト湧説とピラミット伝説については、茨城県居所の武内（竹内）家に伝わる「竹内古文書」に記載されているとして、それが新郷村にあるということから古代史研究家の方々がその場所を特定したのであります。ゴルゴダにて磔刑にされたとされるキリストは実はキリストの弟・イスクリで、本物のキリストは密かに日本に渡っていたという伝説があり、その伝説を活用した町づくりを展開しています。それを伝えているのは「キリストの墓」と「キリストの里伝承館」を中心に展開され、毎年、6月にはキリストの霊を慰めるキリスト祭が開催されるなど、合わせて「大石神ピラミッド」とを活用し村を代表する観光資源となっています。

これら神秘的な物語は県内外から注目を集めていると共に、その伝説や物語は村民にも代々受け継がれ、これら観光資源を活用し、交流人口の増加と地域産業にとって大きな活性化をもたらしているものと推察いたしました。

6、岩手県雫石町

対応者 議長 猿子恵久

経営推進課 米沢課長 高橋主査 吉田主査

議会事務局 局長 千葉昇

概要 雫石町は北東北地方の拠点都市である盛岡市の西方16キロメートルに位置しています。北は岩手山鬼ヶ城稜線を境として八幡平市に接し、その広がりはおおよそ東西24キロメートル、南北40キロメートルで総面積は609.01平方キロメートルと広大であり、奥羽山系の山脈に囲まれた扇状の盆地をかたどっています。

地勢は、秀峰岩手山をはじめ1,000メートル以上の山が連なり、これら山岳や高原が総面積の大部分を占めており、標高300メートル以上が総面積の80パーセントに達している。また、山麓部には広大な傾斜地が開かれ、天然林、牧野、田畑がのどかな田園風景を作り出し、田、畑の耕地は、雫石川などの三河川流域に展開しています。

この雫石郷には先史時代からすでに人々が定着し生活を営んでいました。文書として記録はないが町内各所で発掘される遺跡、遺物がそれを物語っています。

明治維新に廃藩置県により盛岡県に所属し、10カ村の行政区画に分かれ、この間、県名は岩手と改められるなど、現在の雫石町の基礎となる行政区画が確立しました。町村制施行後は、雫石、御所、御明神、西山の4カ村に統合され、雫石が村から町に昇格したほか、1町3カ村体制が66年間にわたり続き、昭和30年の町村合併促進法によって、1町3カ村が合併して、現在の雫石町が誕生しました。豊かな自然と共生した快適な生活環境の確保を図りながら、農業・観光を中心とした魅力ある産業の

創出と町の位置づけの優位性を活かした交流・連携を進める町づくりがうかがわれました。

当町は農業と観光産業が支流で11の温泉が点在する。年間260万人の客があり、300万人を目標にしているとのこと。公の施設は58施設があり、指定管理制度による管理施設は25施設で、町直営による管理施設は33施設であった。指定管理料として高額であった施設は、保育所の管理料の76,413千円であった。また、道の駅などの営利関係の施設については管理料の支払いはないとのことで、修繕料については10万円までが管理者負担で、それ以上については町の負担であった。また、町内の3スキー場は民間資本で運営されており、大手企業も進出している。第三セクターへの町職員の派遣はないが、町長、副町長が役職として就いている。

最近はスキー客の入込が350万人から250万人と激減しているため心配していることがうかがわれた。しかし、雫石町には秋田新幹線の開通により雫石駅では新幹線の乗降ができることで、観光客の誘客には大きな力となっていた。更には、観光資源として日本屈指の民間観光農場が開設されており、まさしく観光の町として飛躍していく要素が見られた。

所見

新郷村では、今ある伝説や自然を大切に継承し、観光資源としてそれを有効に活用し地域の活性化につなげることで、特色のある町づくりに取り組むこともできることで大変参考となった。

雫石町では、首都圏から新幹線で2時間45分との交通の便利な優位性を持って、観光客の誘客に努めていることは羨ましい限りで、観光産業の町づくりを進めていることがうかがわれた。わが町においても限られた観光資源と施設を再度検証するなど町の方向性を導き出して、町の雇用にもつないでいきたいと思うしだいです。